

議会だより

あさぎ

平成25年 9 月

No.75

題字は、館保育所 くま組の木村篤生くんです。
きむらあつき



6月26日(水)総合体育館で行われた第36回高齢者スポーツ大会



プレミアム商品券発行事業に 1500万円を補助

平成25年第2回定例会が6月13日招集され、補正予算、条例等19件を審議し、いずれも原案どおり可決されました。

補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ1億2643万5千円を追加し、総額39億2844万3千円となりました。

追加補正された主なものは次のとおりです。

●介護付有料老人ホーム入居者支援対策事業費補助金 (1億円)

●起業支援型雇用創造事業委託料 (672万7千円)

●立茎アスパラガス産地確立推進事業費補助金 (312万5千円)

●青年就農給付金 (450万円)

●プレミアム商品券発行事業費補助金 (1500万円)

質疑応答

(要旨のみ)

問 ゆいまゝる厚沢部の入居は町民を優先させるのか。
今後、再支援要請があった場合や万が一撤退することになった場合の考えは。

答 補助をする以上、町民を優先してほしい旨を強く伝えます。

今後の再支援については、考えておりません。また、必

ず事業を継続、発展させ、決して撤退はないと考えますが、仮にあったとしたならば、第3セクター等の方法での介入が必要かとは思っています。

問 起業支援型雇用創造事業に係る事業所(一千堂)について

答 各町の特産品を題材にしたものを作成・販売し、地域おこしをメインに行っている会社です。

今回の事業内容は、メイクインを使った新たな加工品の開発と販路拡大に取り組むことで、道の認定を受け予算化になりました。

問 青年就農給付金について

答 対象条件は、親元に就農し、おおむね45歳未満で5年以内に経営移譲する方と、もう一つは、親と全く違う経営形態で独立した経営を行う方で、最大5年間150万円が給付され、本年は町内で3人確定しています。

これは、人・農地プラン関連の給付金で国費です。

問 プレミアム商品券について

答 当町の商工会員の事業所及びＡコープで利用でき、販売方法は、千円券10枚1組7千円を1世帯3組（3万円相当）までとしています。

国保会計

人事異動と給与削減に係る人件費で172万1千円を減額し、総額6億7339万円となりました。

介護保険会計

人事異動と給与削減に係る人件費で保険事業勘定は38万5千円を追加し、総額6億2674万4千円に、介護サービス事業勘定は2万9千円を追加し、総額221万3千円となりました。

簡易水道会計

給与削減に係る人件費のほか館地区管末残塩計盤移設工事費で78万9千円を追加し、総額9595万5千円となりました。

農業集落排水会計

人事異動と給与削減に係る人件費で316万3千円を減額し、総額1億2549万7千円となりました。

国保病院会計

人事異動と給与削減に係る人件費で収益的収入及び支出について131万1千円を減額し、予定額4億5009万2千円となりました。

各会計補正予算額一覧表

会計名	区分	補正額	補正後の額
一般会計		1億2643万5千円	39億2844万3千円
国民健康保険事業特別会計		△ 172万1千円	6億7339万円
介護保険事業特別会計	保険事業勘定	38万5千円	6億2674万4千円
	介護サービス事業勘定	2万9千円	221万3千円
簡易水道事業特別会計		78万9千円	9595万5千円
農業集落排水事業特別会計		△ 316万3千円	1億2549万7千円
国民健康保険病院事業特別会計	収益的収入及び支出	△ 131万1千円	4億5009万2千円

条例

●町職員等の給与の臨時特別に関する条例の制定

国からの要請を考慮し、7月から来年3月までの間、職員及び常勤特別職の給料を一律2・6%削減するものです。

●新型インフルエンザ等対策本部条例の制定

新型インフルエンザ等対策特別措置法が施行され、緊急事態宣言時には市町村も対策本部設置が義務付けられたことによるものです。

●農業集落排水設備改造資金補助条例を廃止する条例の制定

●農業集落排水設備改造資金融資あっせん条例を廃止する条例の制定

農業集落排水事業の今後の計画がないこと、最後に整備した館地区の供用開始から一定期間が経過したことから廃止するものです。

規約

●北海道市町村総合事務組合規約の変更

●北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

報告

●厚沢部町一般会計繰越明許費の繰越

平成24年度に予算措置された種子馬鈴薯選別施設整備事業の11億175万5千円、農業体質強化基盤整備促進事業の2億3787万円、道営中山間地域総合整備事業の1387万5千円、鵜ダム管理省力化施設整備事業の1850万円、町道路路ストック総点検事業209万6千円、建設機械購入事業4828万7千円、新町市街地線交付金事業4315万4千円、Ｊアラート緊急整備事業525万円と厚沢部中学校屋内体育館耐震改修事業の702万5千円を平成25年度に執行するものです。

議員派遣

●議員研修会（道議長会主催）

目的 分権時代に対応した議会の活性化及び当町の基幹作物であるメーラインの原種栽培・供給体制について視察し、議員の資質向上を図るとともに、今後の

行政推進の参考とする。
場所 札幌市、安平町
期間 6月27日～28日
議員 全議員

討論

一般会計補正予算「介護付有料老人ホーム入居者支援対策事業費補助」における「反対・賛成討論を掲載します。

反対討論 加藤古志男議員

私は第2回議会定例会に提案された、一般会計補正予算に対して反対の立場で討論に参加します。

3款1項3目老人福祉費に介護付有料老人ホーム入居者支援対策事業費補助金1億円が提案されているからです。この1億円の補助金は、これまでの議員協議会の経過からみて、ＣＮ（株）コミュニケーション）へ補助することは明らかです。入居者への支援としていっぺんに1億円もＣＮに補助することは理解できません。月一人に4万円助成して定員20人で、月80万円、1年間で960万円、10年間で9600万円になります。1

億円の入居者支援費では10年以上支援することができません。

今の日本の情勢から、10年先は予測できないと言われている。CNの10年先も予測できないと思います。予測・

推測できない事業に1億円を補助することはいかなるものでしょうか。1億円補助することで、入居料2万円減額がCNの企業努力によって4万円減額になったとCNを持ち上げていることも理解できません。1億円も補助するのですから、当たり前の話です。現行料金を下げたことになりません。

町民が低額な料金で入居できるように配慮する町長の考えには理解できます、私も賛成です。入居者支援事業というのであれば、CNの補助ではなく入居者に直接補助、助成すべきと考えます。

単年度予算を組み、決算することが普通ではないですか。当町では給食費の助成や保育費の助成等、単年度の予算決算になっているのではないのでしょうか。町が直接入居者に助成することで、4万円を基準額にして所得が多い人、資産を多く持っている人には助

成しないとか2万円にすると、所得が少なく資産ない人には5万円、6万円を助成する、応能的助成することがいいのではないかと思います。

4月22日に行われた協議会では支援案2として、ゆいまゝの入居者に4万円、グループホーム入居者に2万4000円を助成することで、町内の施設入居者への公平性を保つことや、一定年数以上居住している人等の条件も示されていました。5月9日に示された入居者支援案については、いずれもカットされています。町民の切実な要望でした。町外の人がいきなり入居しても4万円の助成を受けられることにも、町民が理解していません。以上のことから、反対の態度を鮮明にし、討論を終わります。

賛成討論

中山俊勝議員

賛成の立場から討論をしたいと思います。

ただいま加藤議員のほうから反対討論が出たわけですが、私も、私は今までの議員協議会を経た中での結果、また、今後の当町の将来を考えた時、

また、先ほども一般質問にあつたように高齢化、そして人口減ということを考えた時に、当施設の必要性は大変重要視されるものであります。

また今後、この施設が当町の核として他の面で振興が図られることを期待していますので、ぜひともこの施設を活性化させなきゃならないと私は考えます。

また、企業誘致として考えた場合、やはり今の1億円でこの施設が充実すると、そして町長の説明のとおり安い、当町の人が入れるという部分がクリアーできるといふのは、非常に私たちこれからこの施設を考える時に、重要なポイントでないかなという、そして当町の住民を優先して入れるということも大事なことであります。

また、今実際にこのゆいまゝの厚沢部に当町出身の従業員が多く採用されているということは、企業誘致として本当に、大変当町としてうれしいことではないかというふうに思います。

私は今言うように、加藤議員が言うように、この施設というものの重要性、これは誰

しもが認めていただけのではないかと、そして議員協議会を何回も経ての結果でございまして、この予算に対して私は賛成したいというふうに思います。

反対討論

小野則昭議員

ただいまの反対・賛成の同じ部分でございすけれども。11の一般財源1億円、介護付有料老人ホーム入居者支援対策事業費補助金という、今回は説明がなされておりますけれども、この部分については、認めることはできません。

昨年の、既に否決されました平成24年度第3回定例会補正の有料老人ホーム等整備事業費補助金という言葉を変えただけで、全く同じ提案、だと私は考えております。

したがって、前回既に述べておりますので、ここでは省略いたしますけれども、高福祉には高負担が伴うということ、皆さん御存じのとおりでございますが、民間の有料老人ホームに対して自治体が補助している例は全国にもありません。

渋田町長の町政運営、また、行政の町民のための、あらゆ

る取組を議会としても協調していくことは大事なことで考えております。しかし、我々議員は、行政のチェック機能を果たしていかなければならないと考えます。

つい先ほどの一般質問で、町長の答弁に今後、専門家を交えて考えていかなければならないと話しておりましたけれども、このCNの問題の前に気づいてほしかったと私は思います。高齢社会対策が、免罪符のようにこの町では特にそのような言い方されますけれども、1億円を補助するなど、これだけ間違いが明らかである事項の提案は、もう二度とないことをお願いしたいと思います。

賛成討論

高田一弥議員

私は、賛成の立場から意見を述べたいと思います。

当初、このゆいまゝの話しを渋田町長がされた時に、基本として将来うちの町というのは必ず高齢者にあふれる、その時が来ると。だか

ら、その高齢者対策は何とかなる、何とかしたい、その時にたまたまこのゆいまゝの高橋社長という方と知り合つて、この話を持つて来たということを最初にしました。

今から3年前、平成22年6月に私達議員と役場の課長さん達を前にして、高橋社長がその時熱く語りました。その時の言葉の中で社長が「社長、こういうもうからない所で商売本当にやるのか、商売って仕事やるのかい。」という質問をした時に、「私も男です、やると言つたからにはやります。」というふうに言つていただきました。ただし、「私も頑張るから皆さんもぜひ協力してください。」と、こういう言い方をされました。

ただ、この時と今の状況が大きく違うのは、その時は土地の貸与だけで、入所一時金というのをもらうことができた制度があった。ところが、その2年後の24年になって、4月にルールが改正になったというところで、その後町長が私達に、実はCN高橋社長のほうから、こういうふうな制度が変わつて、このままでは厳しいので撤退したいという

ようなお話しもあったということとをされた時がありました。その時に町長としては、それでは困ると。うちの町はぜひともこの施設が必要なんだというところで、このことをぜひ強くお願いしたと。

ただし、やはり当初の計画とは予算が全然変わつてしまつたので、当初50、60という部屋数を計画していたものを、今の場所の20床のみになつたという経緯があつたと思います。その結果、当初見込んでいなかった1億円ということとを、これは町としても恐らく苦肉の策だつたと思うんです。けれども私は以前、札幌酒精が来る時に2億円の補助を出しました。同じようにこれも企業誘致であります。

ぜひ、この企業がこの地元で頑張つてやつてくれるためには、1億円という補助は決して私は無駄ではないというふうに思います。ぜひこのCNが、この厚沢部町で何とか頑張つて我が町を雇用にして、また、高齢者が住みやすい町というふうにしても、頑張つてやつていただくことをお願いして、賛成いたします。

賛成討論

佐々木宏議員

賛成の立場から討論いたします。

私は、建設に際して厚沢部福祉会、そして厚沢部町地域包括支援センター、そして町独自で行っている各種13事業の高齢者生活支援事業の展開で高齢者への各種支援はカバーできるとして、1億円の補助には賛同しませんでした。しかし、厚沢部町は三人に一人は高齢者です。既に超高齢化社会に突入している町であります。今後、団塊世代が後期高齢者となり、老健施設に対する期待はますます大きくなっていきます。国では官から民への移行による、民間活力によるビジョンを打ち出しております。檜山管内においては、老健施設の充足率が高く、行政による整備は不可能な面が多いんじゃないかと思うところです。

国では老人福祉の介護予防サービスの見直しの考えが示されております。要支援1と2については、市町村主体で実施しなければならぬ状況と、そしてまた、在宅介護の充実を高めていかなければなら

ない国の政策ビジョンがあります。

長い将来にわたつて町民の意見が尊重され、明るく安心できる住みなれた地域の、良い環境で暮らし続けることができる高齢者ケアに、ゆいまゝの施設が果たす役割は非常に大きく、安全で安心して暮らせる素敵な過疎の町の実現に向け、医療、介護、福祉医療及び居住福祉の総合的な地域ケアシステム構築に向け、町国保病院と厚沢部福祉会、松山介護サービス等々町内3事業所と社会福祉協議会との連携を図り、地域包括ケアシステムを提供する体制整備確立の一助と、必ずやなるものと確信するものです。

一方、議会報告会の折、グループホーム入所者に対しても入居支援を等しく行うべきとの声がありました。私も当初、町民の平等性を考えた時、そのように進むことが良い方策だと考えたのですが、国の地方交付税の減額、人口減少に伴う財政基盤の不安定を見通した中で、現在の盤石な町財政の中での1億円支出が最良の方策であると判断するものです。

反面、1億円支出の費用対効果はどうなんだというような声が町民から聞かれます。ゆいまゝの完成により松山介護サービスが充実したところでは、松山介護サービスが事業主体となつて行うグループホームの増設と、デイサービス事業実施による多様な高齢者生活支援事業の展開による町民サービスにより、十分見合う1億円の恩恵があるものと思うところです。そして素敵な過疎のまち厚沢部としての礎の一つの事例となるのであると確信して賛成討論とします。

意見書を提出しました

第2回定例会で意見書2件を原案どおり可決し、関係省庁に提出しました。(内容省略)

●地方財政の充実・強化を求める意見書

提出先 内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、内閣府特命担当大臣(経済財政政策担当)、経済産業大臣

●原発のない北海道の実現を求める意見書

提出先 内閣総理大臣、経済産業大臣、環境・原子力防災大臣、原子力規制委員会委員長、北海道知事

一般質問

～聞いてみたい、こんなこと～



中山議員

質問 1

町内児童・生徒の食物アレルギーについて
中山俊勝議員

学校・保護者・主治医と連携して対応
中井教育長

問 現在、町内の保育所、小・中学校における食物アレルギーの子供たちについて、お聞きします。

①当町在籍の保育所、小・中学校のアレルギーマスターを持っている人数は

②どのような対策をしているのか

③アレルギーマスターの種類は

答 ①保育所6名、小学校7名、中学校4名です。

②学校においては、学校医の指導を基本としながら、校長始め全職員で情報を共有して日々の健康状態を把握し、保護者や主治医との連携を図りつつ、個々の児童生徒の状況に応じ対応に努めています。

③卵、牛乳や乳製品、そばが多く、他に納豆、甲殻類、魚卵などです。

質問 2 空き家、廃屋の利活用と対策について

問 町内全域に見られる空き家、廃屋について、今後の対策は

①町内には空き家、廃屋が何件あるのか

②利活用や処置についての対策は

③条例や規則制定の考えは

今後協議、検討

答 ①正確な数字ではありませんが、東日本大震災後の調査で27件の情報が寄せられました。その時点で貸付可能なものは4件でした。

②空き家に関しては、いかなる利活用が可能かを今後協議する必要があると思っています。また、廃屋に関しては、あくまでも個人財産のため責任は所有者であり、対応は難しいと思っています。

③現状でも指導や勧告、場合によっては除去命令、行政代執行も可能ですが、現段階では条例や規則制定の考えはありません。

質問 1

ゆいまゝる厚沢部入居者支援について
加藤古志男議員

入居料を引き下げ入居しやすい環境を
洪田町長



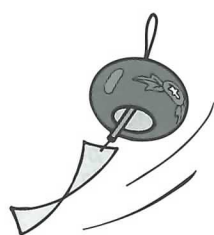
加藤議員

問 この度「ゆいまゝる厚沢部」の入居者支援として1億円が提案されていますが、1億円の根拠とグループホーム入居者への支援は。

答 まず、昨年9月の定例会で、㈱コミュニティネット（以下CN）から示された、国の補助金を除いた建設費必要額が2億2000万円、町の補助規則に基づく2分の1以内の額ということで1億円を提案したところ、理解を得られなかったことは御承知のとおりです。

その後、入居者支援について、議員の皆様との協議を数回にわたり重ねてきたところですが、話し合いの中で、個々への支援よりも最初に補助し、それを最大限に入居者支援効果としたほうが良いのでは、との意見が多く出されました。それを受け町はCNとの話し合いの結果、入居料を4万円引き下げられるとの確認を得ました。そこで、入居者支援のため1億円を新たに提案するに至ったものです。

グループホームについては、既に9床中町外の方が4名決まっている状況でもあり、比較的低料金で入居しやすい環境であること、町外の方が多く入居されることを推察し、当面の支援の必要はないと考えています。



当町の将来イメージと経済成長戦略について

山崎 孝 議員

協働して地域力を高める

洪 田 町 長



山崎議員

問 当町の人口は、27年後には約半分と発表される中で、人口減少問題、経済の成長戦略について、町長の所見を伺います。

答 当町の人口はほぼ半減となり、高齢化率も45%を超え、厚労省の国立社会保障・人口問題研究所発表の将来人口推計では、近隣町より少し良い方だとはいえ大差なく、大きな衝撃を受けました。

ただ調べてみますと、14歳以下の人口に占める割合は、27年後には北海道の平均を上回り、これまで進めてきた子育て支援策など徐々に若者定住対策の効果が現れていると思っています。

一方、政府は大胆な金融緩和、機動的な財政出動に次ぎ、民間投資を喚起する成長戦略を発表しましたが、原発の問題が残る電力の確保や少子高齢化による労働力の確保、TPP交渉等の難題を抱えています。

このような状況下で純農村厚沢部町の活路をどこに求め、どう生き残っていくのか。当然その特効薬を考えて、町が直接投資して雇用の場を作る手法も考え、過疎対策として企業誘致や企業おこしも視野に入れ、若者が入ってこられる環境が必要です。国の方向を見ながら、先手必勝の考え方が重要であり、まちが元気であるためには、町民と行政、更には民間企業や大学等が協働して地域力を高めていく必要があると思います。

委員会活動

町議会に設置されている総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会では、今年度の所管事務調査の内容を次のとおり決定し、7月から調査を開始しています。

○総務文教常任委員会

- ・ まちなか交流センターの指定管理状況と現地見学について

- ・ 太鼓山町有林の管理状況について（現地調査含む）

- ・ 教育委員との懇談（体罰・いじめへの対応、学校の統合に関し意見交換）

- ・ ゆいまくる厚沢部の見学

- ・ 道の駅のリニューアル状況について

- ・ うずら温泉宿泊施設指定管理者との懇談

- ・ 素敵な過疎づくり株式会社との懇談（ちよつと暮らし住宅の利用実績等）

○産業厚生常任委員会

- ・ 下水終末処理場の維持管理状況について（厚沢部地区現地調査）

- ・ 生活道路の整備について

- ・ 高齢者福祉事業の現況について（町デイサービスセンター現地見学）

- ・ ジャガイモ及びダイズストセンチュウの発生状況と予防対策について

- ・ 林業専用道「清水線」の整備状況について

- ・ 種子馬鈴薯選別施設の整備状況について

- ・ 国保病院の経営改善計画について

委員会活動状況

月日	委 員 会 名	出席 委員数	活 動 内 容
6	10 議会運営委員会	4名	第2回定例会について
	14 総務文教常任委員会	6名	所管事務調査について
	14 産業厚生常任委員会	5名	所管事務調査について
7	8 総務文教常任委員会	6名	第1回所管事務調査
	19 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.75号の編集について
	26 議会運営委員会	4名	第5回臨時会について
	30 産業厚生常任委員会	5名	第1回所管事務調査
8	2 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.75号の編集について
	21 議会広報編集特別委員会	4名	広報No.75号の編集について

7月26日

臨時会

第5回臨時会が7月26日招集され、補正予算等2件を審議し、原案どおり可決されました。

補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ2613万5千円を追加し、総額39億5457万8千円となりました。
追加補正されたものは次のとおりです。

●町遺族会運営費補助金
(463万5千円)

●産地・輪作体系確保整備事業費補助金
(800万円)

●檜山南部広域アスパラガス
基盤強化促進事業費補助金
(1350万円)

まちな話題

契約の締結

●強い農業づくり事業種子馬鈴薯選別施設特殊機械設備工事請負契約の締結

・契約の方法 一般競争入札
・契約金額 4億4940万円

・契約の相手方 シブヤ精機株式会社

・工事量

1日に種子馬鈴薯80ト原料
処理能力の選別設備一式

・工期

平成26年2月28日まで



7月23日(火)京都のノートルダム学院小学校6年生が、今年も修学旅行で厚沢部町を訪れました。厚沢部小6年生と「イカダ下り」やレク森で「バーベキュー」などをして交流しました。



7月27日(土)大勢の人でにぎわった「ふるさと夏まつり」
写真は、道南ご当地キャラこれくしょん in あっさぶ。

まちな議会を傍聴してみませんか

町政はあなたのために 次の定例会は9月25日(水)からです。

《一般質問開始予定：25日午前10時20分頃～》

手続きは、議会事務局備え付けの傍聴者名簿に住所・氏名を記入するだけです。

編集後記

今年は、私の厚沢部中学校卒業50周年の節目の年であり、また、町制施行50周年の年でもあることから、同期会の開催が決定されました。

50年ぶりに再会となる者も何人もいましたのですごく楽しみに、そして誰が出席するのかワクワクしていました。

会場である旅館で顔を見ても、誰か分からない者もいました。やはり年月の長さを実感しましたが、ネームプレートを見て面影が浮かんできました。(やつとのこと)

始めの挨拶が終わわり、同期生で死亡が確認されたのが14名おり、黙とうを捧げました。つくづく思うことは、全員がそういう歳になったのだと改めて感じたところです。

それでも会が始まると皆がそれぞれ和気あいあいと盛り上がっていました。同級生の一番良いところは、全員が同じ思い出に戻れると言われますが、正にそのとおりだと思いました。次会は3年後に開催することで決定しましたが、次も今回以上の人が元気で笑顔に参加されることを望んで終了しました。

(は)

議会広報編集特別委員会
委員長 高田 一弥
副委員長 浜塚 久好
委員 松村 松雄
委員 下川部 洋伸